

生きる勇気と力と希望を

～ 認知症にかかわる当事者 5 団体からのアピール ～

2016 年 秋 全国若年認知症家族会・支援者連絡協議会
男性介護者と支援者の全国ネットワーク
日本認知症ワーキンググループ
認知症の人と家族の会
レビー小体型認知症サポートネットワーク

「認知症」という言葉を聞かない日はないほど、今やメディアでも、まちなかでも普通に話題にのぼるようになりました。でも、認知症に対する誤解はなくなり理解は深まったといえるのでしょうか。認知症の人の権利や尊厳、介護する家族が抱える問題にも、人々は気にかけてくれているのでしょうか。

ひとくちに認知症といっても、原因によって、年齢によって、性別によって、環境によって、抱える問題は様々です。「まだ働きたい」「社会の一員でありたい」「小さな喜びがほしい」「できる力をみつけてほしい」「できなくなったことを見過ごさないでほしい」「元通りになりたい」…願いや期待、声にならない『声』を数え上げれば限りないことでしょう。

現実をみれば、誰もが望む通りに生きられる世の中ではない、ことはわかっています。

でも、そんな中でも、生きる勇気と力と希望がほしいのです。そして、共に生きる家族の幸せにも目を向けてほしいのです。

2017 年国際アルツハイマー病協会(ADI)国際会議に向けて、認知症の人、家族、支援者がかわる 5 つの当事者団体が集結しました。

初めての試みです。認知症の原因がそれぞれ違ったとしても、認知症の人が若くても、年老いても、介護する家族が女性であれ、男性であれ、支援する組織がさまざまな取り組みをしているからこそ、お互いに補い合える土台がこれで整いました。

今、何が必要なのか、一番知っている人たちが力を合わせる時がきたのです。

誰でも認知症になるかもしれない現実があり、
誰にも認知症の人の介護家族になる可能性があります。

一人ひとりがさらにもう一步、認知症を自分の問題として、引き寄せて考えてみてください。

どうか、認知症になっても安心して暮らせるやさしいまち、暮らしやすい世の中を創るにはどうしたらよいのか、私たちと一緒に考えてください。

社会全体でこの問題を真剣に考えていけるよう、私たち 5 団体は、認知症の本人として、介護する家族として、それぞれをささえる支援者として、力を合わせ、力をつくしていきます。

(2017 A D I 国際会議の成功をめざすプレイベント)